

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000283		
法人名	株式会社道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじ(ユニット1)		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-13		
自己評価作成日	平成25年1月26日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然豊かな環境に囲まれており、家庭的な雰囲気の中で入居者が安心して暮らせるように努めています。入居者一人ひとりが持っている能力を引き出し、その方にあった自立した生活を楽しく送れるようお手伝いをしています。地域の方々の協力を得ながら、地域との交流を深め、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigvsvoCd=0172000283-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の2ユニットは、小樽市郊外の温泉街の入り口にあり、豊かな自然環境に恵まれた環境の中で、当ホームを含み7つのユニットが、軒を並べた3つの建物に分散され、同一法人で経営されている。当ホームは母体法人の中で2001年に一番最初に開設され、乏しい地域資源の状況にもかかわらず、自力で活用や共存を模索し培ってきた経緯がある。このホームの優れた点は、介護形態の工夫に見られる。具体的には夜勤職の固定化である。夜勤職を夜勤職として雇用し、日勤者の夜勤を廃止することにより、日勤者は常時固定化され、統一的で意思疎通の十分なケアが可能となった。またそのことが、夜勤ローテーションのストレスから開放され、精神的にも肉体的にも良好な勤務体制となり、離職の防止にもなっており、安心した介護へと帰結している。利用者の落ち着いた穏やかな生活を前提とした当ホームの取り組みに、今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修で定期的に勉強しています。また、フロアや休憩室に掲示し、職員がいつでも理念を確認出来るようにしています。	理念について、年に2回程度社内研修があり、実践に活かせるよう取り組んでいる。また理念は玄関や居間に掲げており、いつも目に入るよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供達とハロウィンパーティーやクリスマス会を行ったり、ホーム主催の秋の収穫祭にも地域の方々に参加して頂き、交流を行いました。	温泉街であり、社会資源は乏しいが、地域の小さな小学校と強く連携しており、相互交流に努めており、温泉協会との関係も深く、地域住民と収穫祭や各種行事での密な交流も保持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の際は入居者様との接し方等を説明し、認知症について正しく理解して頂けるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自己評価やホームでの様子についてご報告させて頂いています。また、意見交換を行い、意見を参考にさせて頂いています。	行政や包括、地元町内会役員、家族の出席により運営推進会議を定期的に開催している。内容的にホームの行事報告に留まらず、避難訓練の具体性等、サービス向上の方向で取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の勉強会や研修等に積極的に参加させて頂き、情報収集に努めたり、相談やアドバイスを頂く等の協力関係を築いています。	同一地区で7ユニットを運営しており、行政からの信頼関係は強く、情報の交換等の関係性も維持できるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については社内研修等で学んでいます。身体拘束委員会で検討した上で、現在は危険防止の観点から、玄関の鍵の施錠を行っています。	身体拘束防止委員が機能しており、定期的な研修で拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	恒常的な玄関の施錠について、運営推進会議や身体拘束防止委員会で開かれた論議をおこない、施錠の理由や期間について明解に開示するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修を行っています。職員全員が学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については管理者研修等で学んでいます。また、社内研修等でも職員間で話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様やご家族様と話し合い、不安や疑問点がないか確認し、説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日々の会話から確認し、ご家族様へは電話や面会時に意見や要望を傾聴し、運営に反映させています。	利用者からは、日常的な寄り添う介護の中から把握し、家族からは来所時に積極的に問い掛け、意見や要望を聞いている。	家族からの意見や要望の聞き取りは、現状の介護の指針に関連する事であり、アンケート調査等のより積極的な姿勢で取り組むよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、より良いホーム運営を目指しています。	各種会議や朝晩の申し送り等、意見が出る場を積極的に設けて、反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し、積極的に声掛けを行い、職員の実績や勤務状況等を把握しています。また、職員が前向きに働ける環境づくりを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験に応じて社外研修に参加する機会を設けています。職員が資格取得を目指すように声掛けをしたり、勉強会を開いたりする支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加し、交流する機会を得ています。相互訪問研修を行い、他事業者の運営方法やサービスについて学び、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前に面談を行い、ご本人様の不安に思っている事や要望などを確認し、今後安心して生活が出来るように支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族様とお話をする機会を作り、意見や要望を確認し、一緒に解決が出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様と面談し、意見や要望を聞き、必要としている支援を確認しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアのお掃除や料理や食事の準備を手伝ってもらう機会を作り、入居者様と共に生活する関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に関する事はどんな些細な事もご家族様に相談し、一緒に考えています。入居者様がより良い生活を送れるように意見を出し合い、入居者様を支える環境づくりを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知人との面会や以前から通っている病院なども継続的に通えるように支援しています。	美容院や病院等、今までの関係を断ち切らないように努め、家族同行も必要な関係性であり積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を尊重し、会話の橋渡しや余暇活動を一緒に行い、利用者様同士の関係が増すように環境づくりを作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまで築いてきた関係性を大切に、その後もご本人様やご家族様の生活状態を確認するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望等を親身になって聞くようにしています。職員間でも情報を共有し、ご本人様らしい生活が送れるように努めています。	日々の生活に添った支援をしていく中で、思いや希望を把握し、職員間で共有する事で、本人本意になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に生活状況をしっかりと把握し、サービス提供の際に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の心理状態やバイタル測定値、食事・水分摂取量等を把握し、毎日記録に残しています。職員間で申し送りを行い、情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向を第一に考え、個々の状態や特徴等を具体的にして介護計画を作成しています。ご本人様やご家族様、職員が定期的に話し合い、ご本人様の現状に合わせ、サービス変更等を行っています。	一人ひとりの意向や思いを職員全員で検討し、個々のプランとしており、またプランによる目標も、毎日、介護日誌に記載し、日々検証するように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子は介護記録に記入しています。また、申し送りや連絡ノートを使用したり、担当者会議で話し合うことで情報の共有を行い、情報を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室の付き添いやご家族様の都合で付添えない場合の通院介助を行っています。また、ご家族様の宿泊にはゲストルームを用意し、サービスの多機能化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供達とハロウィンパーティーや、クリスマス会等を行い交流しています。また、歌会やお茶会、指圧などボランティアの方にも協力して頂き、入居者様に楽しんで頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人様やご家族様と話し合い、入居後の主治医を決めています。何かあった時に適切な医療が受けられる主治医との関係性を築いています。	本人家族の意向を一番として、医療体制を築いているが、必要となれば協力医も活用し、安心できる医療を提供し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で体調に変化があった場合、かかりつけの病院に連絡し、助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の状態等について情報提供しています。入院中はご家族様や病院関係者と連絡をとり病状の把握を行っています。早期退院を目指してホームの受け入れ態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	状態の悪化が予想される場合は主治医やご家族と十分に話し合いを行い、方針を決めています。	現状、看取りには至っていないが、出来ることと出来ないことを説明し、利用者や家族の希望にそったケアになるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、緊急時の対応は定期的に社内研修等で学び実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内の系列グループホームと連携し、運営推進委員会の地域のメンバーにも呼び掛け夜間を想定した訓練を行いました。	同法人のグループホームと連携し、地域の人の参加も得ながら、年に2回の避難訓練を行い、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けています。	日常的に接する際、常に誇りと尊厳に注意し、職員同士でチェックしあい、対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で入居者様のお話を傾聴し、思いや意向を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はありますが、一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様の希望に合わせ、美容室への外出支援を行ったり、一緒に洋服を選ぶ等の支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすく調理したり、見た目の工夫を行い、食事を楽しんで頂けるように支援をしています。また、食事の準備や後片づけは入居者様と一緒にしています。	メニューは同一だが、各フロアでそれぞれ調理をおこなっている。食材の切る音や料理の匂いなど、五感で楽しめる食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量は確認し、摂取量が少ない時は声掛けを行ったり、出し方の工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行なって頂いています。不十分な方には仕上げ磨きを行い、清潔が保てるように支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るように声掛けや誘導を行い、失禁による不快感を軽減できる様に支援しています。	排泄のサインを見逃さずに誘導し、トイレでの排泄になるよう取り組んでおり、布パンツに戻れるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を行なって頂いたり、牛乳を提供したりと個々の排便状況に応じた対応を行っています。便秘の場合は主治医に相談し、下剤等を処方して頂くこともあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、その都度ご本人に確認し、入浴して頂いています。拒否がある場合は、声掛けの工夫を行ったり、清拭をする等の対応を行っています。	週に2回以上を目安として、入浴支援に取り組んでいる。拒否があっても無理強くない時間や対応に変化をつけて、入浴が楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休んで頂けるように日中の活動量や体調を把握しています。夜間は夜勤者が巡視を行い、睡眠状態の確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて副作用や用法・用量を確認しています。服用の際は間違えないように職員2名で確認し、服用して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際にご本人の趣味や嗜好品等を把握し、個々に合った楽しみを持って頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、行事等で外出をしています。ご本人の希望を把握し、ご家族様に協力して頂くこともあります。	緑や自然が豊富であり、散歩や散策を楽しめるよう努め、家族の協力を得ながら、季節のドライブや買い物等の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様にはお金を所持して頂いていませんが、必要がある場合はご家族様と相談のうえ、少額の現金を所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアの電話を使用したり、個人の携帯電話を使用し、ご家族様や友人との連絡が取れるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや入居者様にリラックスして過ごして頂けるように光の調整、温度調節や湿度の管理を行っています。	居間や廊下などの共有空間は、明るく彩光に満ちており、飾り付けも華美ではなく、落ち着ける空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビを観てゆっくりと過ごされたり、食卓やリビングで談笑されたりと思いいに過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人が使い慣れた物や気に入っている物を持参して頂き、居心地良く過ごせる環境を作りを行っています。	室内には使い慣れた家具や小物道具が置かれており、気に入った家族の写真など、居心地のよい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のお部屋に名前のプレートを貼ったり、トイレの場所がわかるように表示しています。		